

芥川水系（大阪府高槻市）におけるオオクチバス

花崎勝司・豊田正樹

高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川）

芥川は淀川水系の一支川であり、大阪府北部に位置する高槻市内を北から南に縦走し、淀川に合流する。芥川とその支川からなる芥川水系（以下、本水系）には、高低差が様々な堰堤などの河川横断物がいくつも建造されている。淀川合流点から約 2km 上流側には、本水系最下流に位置する高さ約 2.5m の落差工があり、その左岸側には 2011 年 3 月に完成したセツトバック式の魚道が設置されている。

本水系におけるオオクチバス *Micropterus salmoides* の記録は 1962 年以降、約 5 年間隔で行われてきた漁業権漁場での既報をとりまとめ、出現種リストを提示している水生生物センタール編（2013）にはなく、本川全域におよぶ調査を行った平松ほか（1998）や、支川域も含めた全水系を調査対象とした花崎（2014）においても個体数、記録地点数ともに少ないものであった。しかし、2014 年 8 月 15 日に前記した落差工に設置された魚道内のプールに、体長 5cm 程度を中心とした数 100 個体におよぶ本種が確認された。このような一過性的とも考えられる出現状況は、その後は確認されてはいないものの、2015 年 5～8 月に当該魚道の上流端に設置したトラップによって、本種の遡上個体が捕獲されている。これまで確認されたことがなかった上記事例を懸念し、演者の一人である豊田と地域住民有志数名により 2015 年 8～10 月、当該の落差工のある流域を中心に（以下、駆除水域）、餌釣りによる駆除が随時行われ、約 100 個体の標本が当館に持ち込まれた。これらのうち 92 個体を材料として、その体長、肥満度、胃内容物などについて調査した結果、以下のような状況であることが判明した。

体長は平均 $110.3\text{mm} \pm 21.4$ (範囲: 65.8-166.4 mm), 肥満度 (CF) は 25.2 ± 2.4 (同 18.4-30.8), 胃内容重量物指数 (SSI) は 13.9 ± 14.6 (同: 0-70.4), および空胃率は 15.2% であった。体長に対する CF は正の相関を, SSI においては負の相関を示した。このことから、駆除水域は本種の成長に適切な環境特性を有することが示唆された。主要な胃内容物は、タモロコなどのコイ科とヨシノボリ類などのハゼ亜目を中心とした「魚類」、スジエビとカワリヌマエビ属で大半が占められた「エビ類」、およびコカゲロウ科の幼虫、イトトンボ科の成虫、アメンボなどの「水生昆虫類」などであった。また、餌料重要度指数 (IRI) とその百分率 (%IRI) は「エビ類」で最も高く、前者が 3655, 後者が 47.0%, 次いで「魚類」で同 2788, 同 35.9%, 「水生昆虫類」で同 1142, 同 14.7% であった。また、「魚類」と「エビ類」を捕食している個体は、14 cm 以上の個体において顕著であるものの、それ以下の個体においても確認された。対して「水生昆虫類」については、14 cm 未満の個体において捕食割合が高く、14 cm 以上の個体では顕著に低い傾向であった。